

海外の無電柱化事業に関する調査について part2

前号に引き続いて海外の無電柱事業の調査報告をまとめようと思います！



その1.無電柱化のコストの違い

各国の km あたりの工事コストを見てみましょう。

[日本:約 3200 万円 英国:約 6000 万円 仏:1600 万円:インドネシア:約 1075 万円]

こうしてみると日本がずば抜けて高くその為に工事が遅れている、というわけではなさそうですね。しかし、日本は外国に比べると工事の細かい規制が多くあります。

- 日本は常設作業台が設置できないのに対し、外国では設置が許可されている。
- 日本は工事の際に毎日埋め戻しと仮復旧が必要なのに対して、諸外国はそこまで規制が厳しくない。

これらの理由から日本が無電柱化を進めるには諸外国より対応しなければならぬ問題が多くあることがわかりました。

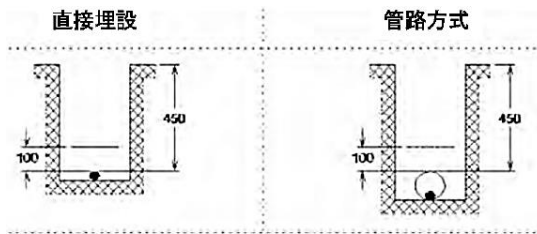


その2.埋設深さの違い

日本と海外では最低埋設深さの基準も違っています。

[日本:60cm 英国:45cm 仏:60cm インドネシア:150cm]

これに関しても日本が特別深くなければいけないということはないですね。しかし、ヨーロッパ圏は直接方式が主流なのに対し、日本は未だ多くの場面で管路式も併用しています。管路式と直接埋設とではまた深さの基準が変わってしまう場合もあるので工事が複雑なのかもしれないですね。



[最も浅い英国の歩道低圧埋設深さ]

では日本が海外と比べて優位な点はないのか？

[地中化工事の高い安全性！] 日本は調査を行った4か国では地中化ケーブルに関する事故、トラブルが発生件数は低い方でした。英国は毎週1～2名程、工事作業員の火傷レベルの感電事故。フランスでは、人身事故こそ少ないものの20kvの低圧でさえ年間 6000 件もの停電事故、トラブルが起こるそうです。防災面のメリットがある無電柱化なのでこれらの工事の安全性は事業の信用性にも関わりますね。

[復旧時間が早い！] 今回発表された資料では家あたりの停電時間が諸外国と比較して一番短い時間でした！[日本:15分 英国:40.5分 仏:23分 インドネシア:335分]

小池百合子（衆議院議員）・松原隆一郎（東京大学教授）共著
『無電柱革命』PHP 研究所 2015年7月15日発売予定

日本の電柱の現状について感じる事を 1500 字程度で書いてお送り下さい、掲載させていただきます。自己紹介（お仕事、住所等）と顔写真を添えて下さい。お待ちしております！事務局

電線地中化に関するコラム・情報を月2回メールマガジンで配信しています！
ぜひこちらもご登録下さい！ → <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>

日本の空を、安全・安心で美しく！

美空 ～MISORA～

第82号

発行日:2015年7月25日(土)

発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク
理事長 高田 昇

【活動報告】 ■大阪東京合同理事会 6月26日(金) ハートンホール毎日新聞ビル B1

■合同理事会の議題案

<骨太活動方針案>無電柱化推進法の成立を受けて、当 NPO の次のステージとして、どのような活動を行うのか？

高田理事長から無電柱化推進法を受けて我々が取り組むべき大きな2つのテーマ

1、電柱を建てずに開発する方法 2、安く電柱を減らす方法

NPO の次のステージとして追及していく。

<各委員会、東京活動委員会の活動方針について>

東京と大阪両方に各委員会のメンバーは分かれているがそれぞれの情報共有はうまくいっているのか。技術開発委員会においては東京に一人なので活動は大変ではないか

・東京と大阪の連携の仕方について

東京の方が国交省などの各機関も近いので情報を早く得られる。得られた情報を大阪とどうつなげていくか。東京と大阪、円滑に連絡をとるためにそれぞれ窓口を設けるべきではないか。

<理事の2年任期満了と新任理事承認の件> ※異論なく承認

<札幌支部設立の件>

寒地土木研究所との連携と北海道での無電柱化推進に向けて、札幌支部の設立を検討
伊津理事:法案成立後、準備委員会を立ち上げる。活動頻度は、未定であるが、施行日に支部設立し記念してのシンポジウムを開催し、会員獲得を図る。

<無電柱化の日(11月10日)について>

[企画提案内容]無電柱化川柳の募集。無電柱化民間プロジェクトと共同で進める等。

<その他の審議事項>

・青森の方で無電柱化の動きがある。仙台でも展開していけないか。

・重要伝統建造物群保存地区のプロジェクトについて、根付いていけば地域との連携を広げていける。



←合同理事会の様子



←総会の様子

設立8周年記念セミナー開催！

6月26日に大阪・梅田にて設立8周年記念セミナーを開催致しました。三人の講師方による説明と、その質疑応答が行われました。そこで、今回はその内容をお伝えします。

★無電柱化推進法の解説 自民党 無電柱化小委員会 宮内秀樹氏

日本の電柱の本数は景観や防災状況を悪化させているにも拘わらず更に増えつつある。電柱化に対する国民の意識は先日まで低かった。一方で欧米や新興国の大都市や世界遺産周辺では無電柱化が推進されている。

日本では無電柱化のメリットが実証されているにも拘らず、コスト面で困難がある。原因は共同溝方式という大規模な装置と工事を要するものにある。コストカットの余地は十分にある。

無電柱化には関係する諸団体の努力を要する。法律の制定、計画の策定、技術の向上、コストの分担、工事の了解で、様々な官民の団体の協力が必要である。

法案では無電柱化の為に、様々な啓発を予定している。この法律も努力義務なのだが、各々が無電柱化の為に出来ることを考えていくべきだ。

★民間による無電柱化先進事例 コスモスイニシア 細谷一郎氏

コスモスイニシアは不動産業を行う中、住宅地に必要なものとして無電柱化を取り入れた。結果、無電柱化された街では景観や安全性が向上した。

しかし無電柱化には問題がある。公道に配管を埋めるときは、法律によると、道路管理者と電線類管理者とで行われた協議に則り、業者が設備を作る。このためコストが高つく。

そこで、二つの対処法がある。まず、私道に地下設備を設置し、無電柱化区域を作ることである。コストが2~3割に落ちた一方で完全に無電柱化できないという短所がある。もう一つは、新規開発地において使える手だが、共同溝のある道をあらかじめ作ってしまい、市に移管することである。

無電柱化に関する各団体には様々な思惑があるが、法案に期待するところは大きい。自分たちデベロッパーも住民に誇れる街の為、無電柱化に協力していく。

★無電柱化の現場と実際 ジオリゾーム 村上尚徳氏

ジオリゾームは無電柱化工事をコーディネートする団体である。そこで、実際の現場から、無電柱化におけるコストカットできるポイントを探っていく。

まず電柱の部分に当たる柵を設置し、次に電線を通す管路を設置する。このような地下機材はそれぞれ設置場所の掘削、設置、埋め戻しという流れで設置される。村上氏はこの流れの中で4つの大きなポイントを挙げた。まず柵の部材が小型化できれば材料・輸送・施工費をカットできる。次に、それを据え付ける際にも、施工部の工程を簡素にすることで手間や時間を省ける。管路の設置では、電力と通信で別個の柵を使うため、管の長さが不揃いになり、非効率、高コストな作業をすることになる。そこで、電力・通信共用柵の整備の標準化、そして管材量の長さの統一によって、その弊害を避けることが出来る。

これらを行うだけでも5%のコストカットが出来る。また、その他にも様々なコストカット可能な点がある。



◎質疑応答

Q.コスモスイニシア社のような低コスト施工を私道だけでなく公道に適用するとどうなるか？

A.無電柱化が街の周りにも広がる。規制緩和が待たれるところである。

Q.高スペックな部材が多く紹介されたが、需要量を上げるコストダウン策との共存は可能か？

A.高スペックな部材は、高価であるが工事を簡素化するので、全体のコストは低くなる。

Q.日本は豊かなのに、なぜ諸外国と違って無電柱化できないのか？コストの問題なのか？

A.国民の意識が低いことが根本的な原因である。また、海外の低コスト手法が日本の地質に合うかは不明である。

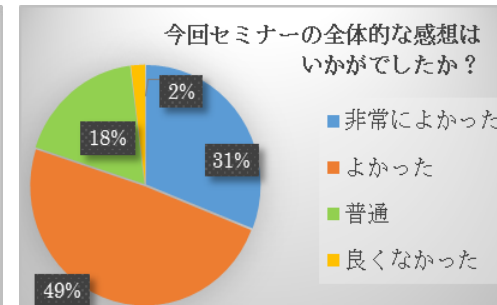
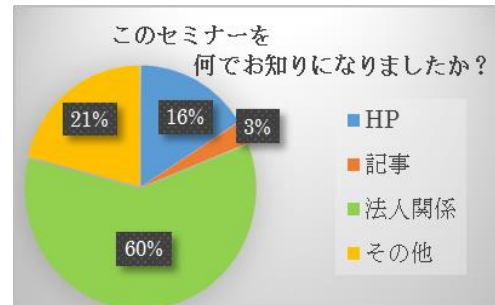
セミナーアンケートの結果、8割の人がセミナーにご満足

★6月26日開催 無電柱化セミナーアンケート集計結果

今回のセミナーにおいて41名の方々からアンケートの回答をいただくことが出来ました。今セミナーを知ったきっかけで最も多かったのは「法人関係から」であり、次に「その他」で知人や会員、NPOからの紹介といったものでした。

セミナーの全体的な感想では8割の「非常に良かった」・「よかった」というご満足いただけた回答をいただきました。「無電柱化の現状と実態を知ることができた」「工事や施工の方法と様子、取り組み事例を見ることができてよかった」「無電柱化推進法案の詳細・法案提出の具体的な話を聞いて参考になった」というような現時点における無電柱化事業の内情、コストやメンテナンスに安全についての課題点、電線地中化工事の施工方法がどのようなものか、国・法律・法案の動きと整備についてという部分に興味を示している回答がよく目につきました。

★質疑応答では、「無電柱化住宅の購入の際の税制やローン等のメリットは検討されているの



か」「無電柱化事業で活性化した町はあるのか」「他国にできて日本国内では困難な理由は何か」「自治体における地域の無電柱化完了までの期間はどれ位」「推進法成立後の目標(無電柱率XX%まで向上、等)はありますか」「無電柱化推進法や計画で路線選定の枠組みや手続き、合意の括りはどう変化するのか」といった問いができました。

希望意見として「セミナーの開催時間が遅いので9時~17時間にして欲しい」「スクリーンが暗くて文字などが見にくい」「施工時の写真など資料はカラーに」「製品紹介にカタログを在中してもらえたら良い」といったセミナー形態に関する希望の他、「電力業者・関係者の意見交換会のセミナーがあればいい」「無電柱化工事現場や会員企業の工場の見学を行ってほしい」「各インフラ会社の意見や展望を聞きたい」「抜柱の課題点对処方法・事例を知りたい」などの様々な意見がありました。これらの質疑応答や希望意見は、参加者の関心度の高い表れであると思います。今後の運営での有意義なものとして参考にさせていただきます！

「美空」に載せてほしい事、調べてほしい事等ありましたら info@nponpc.net までお送り下さい！
皆様のご意見、お待ちしております！ tel:06-6381-4000 Fax: 06-6381-3999 (※番号変わりました)



最新情報は HP で <http://nponpc.net/> フェイスブック <http://www.facebook.com/NPONPC>